

## 評価委員会総合評価

研究課題名：地震と津波の監視・予測に関する研究

評価委員

委員長：小泉 尚嗣

委員：岩崎 俊樹、関口 渉次、西村 太志、馬場 俊孝、保坂 直紀

評価年月日：令和5年11月10日

### 1. 総合評価

- 非常に優れた研究であった
- 優れた研究であった
- 研究を実施した意義はあった
- 失敗であった

### 3. 総合所見

災害軽減に直結する緊急地震速報や津波情報に関する研究が着実に進展していることが評価できる。本課題で研究しているテーマをいずれも気象庁の業務に直接的に貢献する可能性のあるものばかりで、実際に一部気象庁業務に導入されており、社会的意義が非常にある。以上のことから、本課題は優れた研究であったと評価できる。引き続き同様の研究をすすめていただきたい。

次期研究計画に向けて、以下の指摘事項を踏まえて、取り組んで欲しい。

- ・ 副課題1の「地殻活動監視に関する研究」については、地震活動の特徴を示す統合的指標の考案が目標にうたわれており、それに該当する成果が十分であるとはいえない。重要かつ非常に困難な目標ではあるが、気象庁が行うべき、あるいは市民・国民が必要とする地震活動の評価とは何かという課題も考慮して研究を進める事。
- ・ 地震情報や津波予報の受け取り手に関する研究、例えば津波避難行動の高度化など社会とのつながりに関するテーマがほぼ実施されていない。情報の利活用の高度化についても社会から期待されている事を念頭に研究を進める事。
- ・ 防災情報の向上への貢献について、一般向けの分かり易い説明を意識する事。また、社会の防災力を高めるために情報発信の工夫をする事。
- ・ 適切な評価を受ける為に、研究課題の目的・目標と成果の対応がわかる資料を作成し、副課題ごとに成果物を取りまとめる事。